

「資料編

近世5 南部2 八戸藩領」

本書は、寛文4年（1664）に、盛岡藩から分かれて成立した八戸藩に関する文書を掲載しています。八戸藩はわずか2万石の小藩でしたが、その領地は現在の八戸市周辺のほか、岩手県北まで広がっていました。山がちな寒冷地のため農業生産力は低かったものの、鉄や木炭などの特産物があり、八戸湊を通じて全国に交易を行っていました。

本書ではこのような八戸藩の歩みや特徴を時代ごとに俯瞰し、各テーマ別に8章で構成しています。八戸藩日記などの藩政文書の他、城下商人や在郷商人の文書、藩士家の文書など、初紹介の史料を多数掲載しています。



菊牡丹唐草罽十字紋時漆器 八戸市博物館及び杉本旭氏蔵
八戸藩最後の藩主南部信順が、天保9年（1838）に島津家から八戸南部家に婿入りの際に持参したもの。

本巻の構成と特徴

第1章 八戸藩の成立と幕藩関係

諸説がある八戸藩成立の経緯、家臣団の成立や領地の画定、幕政に参画した二代藩主直政と將軍綱吉との関係に関する史料などを掲載。

第2章 藩政の展開と地域社会

八戸藩の村落の特色や名子制度、農民支配の展開と元禄飢饉、藩財政や飛び地の志和領支配などに関する史料を掲載。

第3章 地方知行制下の藩士と百姓

廃藩まで地方知行制を残した八戸藩の特徴から、新田開発や年貢徴収など、藩士の地方支配についての史料を掲載。

第4章 八戸城下の構造と城下商業の展開

代表的な御用商人西町屋の奉公人や借家の動向、城下に出された町触、主要な商取引品である木綿・古着類の流通に関する史料などを掲載。

第5章 産業の発達

九戸地方の特格的な産業である製鉄業や、長い海岸線を持つ特色を生かした鰯漁やその加工業、製塩業など、藩財政を支えた各種産業に関する史料を掲載。

第6章 交通の発達

海上交通では上方や関東など八戸と全国の間屋商人を結ぶ流通構造の実態に迫る史料、陸上交通では参勤交代など様々な往来の様相を明らかにする史料を掲載。

1000点を超える美しいカラー写真で、縄文から現代に至る青森の「造形」を見通すことができます。本巻の造形が豊かですばらしく世界に誇り得ることを、体感してください。



八戸廻御代官所絵図
(文政12年（1829）青森県立郷土館蔵)

第7章 信仰と宗教

領内で大きな勢力を持っていた修験をはじめ、藩の宗教政策や民衆と宗教との関わりを示す史料や、城下最大の祭礼である法霊社祭礼に関する史料などを掲載。

第8章 後期藩政の動向

天明の飢饉や災害等による慢性的な財政難を受けて行われた文政改革や、門閥島津家との縁組みによる家格上昇、領内海防などに関する史料を掲載。

付録・天保陸奥南部領絵図（国立公文書館蔵）
三峰館寛兆筆奥州八戸御城下略図
（八戸市立図書館蔵南部家文書）



八戸藩庁の日記類
(八戸市立図書館蔵南部家文書)

「文化財編 美術工芸」

本書は、青森県の美術工芸全体を初めて通観した本です。

縄文土器の造形に始まり、中世では舞楽面や甲冑などの彫刻や工芸、近世では、絵師の活動とその作品、大名家や寺社などに伝わった絵画、多様な民間仏をはじめとした仏像彫刻、鋳物、漆器などを紹介します。そして明治初期から平成の現代に至るまで、版画、絵画、写真、彫刻などさまざまな分野で多様な作品を残した美術家たちの活動を振り返ります。また、津軽塗に代表される漆工芸、こぎん刺し、菱刺しなどの本県が世界に誇る染織工芸の特徴と魅力を詳しく分析します。

本巻の構成

序章	青森の色とかたち
第1章	縄文時代の造形
第2章	古代中世の造形
第3章	近世の造形
第4章	近現代の造形
第5章	工芸の展開



木造天部立像
(八戸市・清水寺蔵)